

七福神

浜名湖



浜名湖七福神霊場事務局
 浜松市中区中沢町62-15 / 遠州信貴山内
 TEL.053-472-6671 Fax.053-472-6672
 E-mail sigisan@mvf.biglobe.ne.jp
<http://www5a.biglobe.ne.jp/~enshuu/>

1 布袋尊 大福寺

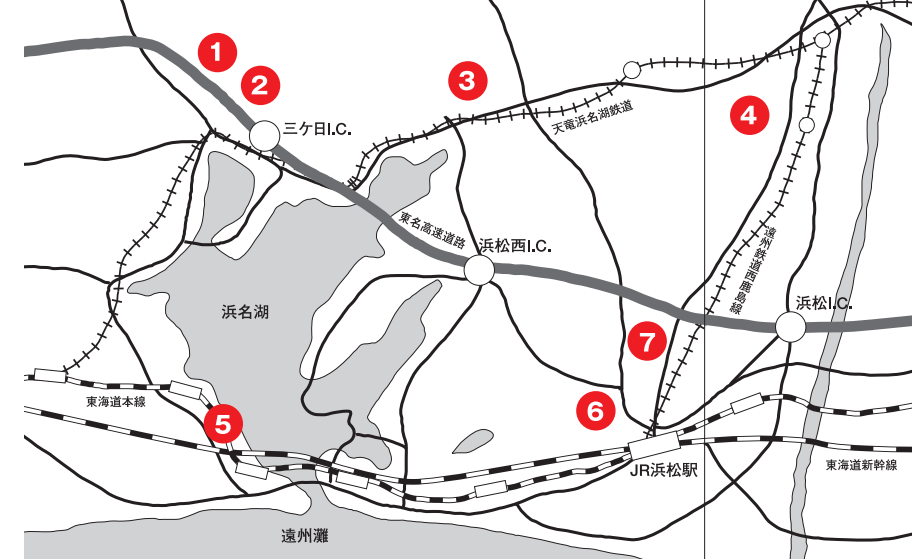
浜松市北区三ヶ日町福長220-3 TEL.053-525-0278

2 大黒尊天 摩訶耶寺

浜松市北区三ヶ日町摩訶耶421 TEL.053-525-0027

3 寿老尊天 長楽寺

浜松市北区細江町気賀7953-1 TEL.053-522-0478



4 福祿寿尊天 岩水寺

浜松市浜北区根堅2238 TEL.053-583-2741

5 恵比須神 応賀寺

浜名郡新居町中之郷68-1 TEL.053-594-0196

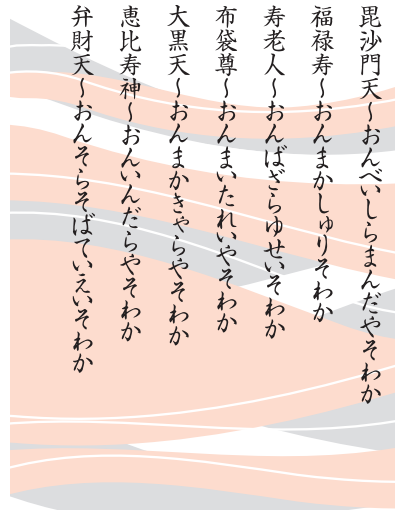
6 弁財尊天 鴨江寺

浜松市中区鴨江四丁目17-1 TEL.053-454-5121

7 毘沙門天 遠州信貴山

浜松市中区中沢町81-26 TEL.053-472-6671

皆様の七難即滅・七福即生をお祈り申し上げます。



毘沙門天「おんべいしらまんだやそわか
 福祿寿「おんまかしゆりそわか
 寿老人「おんばざらゆせいそわか
 布袋尊「おんまいたれいやすわか
 大黒天「おんまかきやらやすわか
 恵比寿神「おんいんだらやすわか
 弁財天「おんそらそばていえいそわか

大福寺

当寺は、清和天皇の貞観二七年(二〇〇年前)名僧教待上人が鳳来山(扇山)に開創し幡教寺と称す。三〇〇年を経て承元三年(八〇〇年前)大中臣朝臣時定卿が所領二五〇町歩を寄附し現在地に移す。その時土御門天皇から勅額を下賜されて大福寺と改称未寺塔頭三〇境内一町五反伽藍建造物二〇を有す。
 境内は海拔四〇米のところにあり猪鼻湖、景勝地瀬戸を眺望、景勝は申すまでもなく九月より四月までの間咲く半歳桜があり、池には赤、白、黄の水蓮が五月より九月まで咲いている様は全く浄土である。庭園は九〇〇坪あり室町時代の築庭と想われるが浄土苑と称し、観賞式兼廻遊式で滝を備え、周囲は自然の山をとり入れソヤではあるが極然的で規模の広大なことは稀れである。又、元禄時代茶祖山田宗偏が来住愛好した名園で池は福助池と云う。
 浜名納豆(大福寺納豆)は大福寺伝製で日本の元祖である。

長楽寺

光岩山長楽寺は、平安時代初期の大同年間(約三二〇年前)に弘法大師によって開かれたといわれ、この寺の北に陽光を受けて光る巨岩を霊地と見、お堂を建てたことにはじまる。この本尊は馬頭観音さままで、のち今川、徳川の信仰を集め、巨岩のふもとに七堂伽藍が建ち並び寺領二五ヘクタールをもって繁栄した。
 上図の写真は、隠元禪師の高弟、独湛禪師の筆である「長楽寺」の扁額がかけられている。山門や土壁は室町時代の作。遠州三名園の一つでドウタンが植え込まれた庭は、小堀遠州作、回遊式の庭で富幕山の中腹の光岩(巨岩)を借景、四季折々にその表情を変える。北側の築山からは客殿の屋根越しに遠く浜名湖を望むことができ、また客殿前の池は浜名湖の風景を凝縮させたものである。又、有名な梵鐘は高さ60cmほどの小さな鐘だが、鎌倉時代の嘉元二年(三〇五)四月十日の銘があつて、静岡県下最古である。

岩水寺

岩水寺は今から千二百年前、聖武天皇神亀二年、行基菩薩が自ら薬師如来尊像を彫刻し開創された。その後、桓武天皇の御代に坂上田村麿から二百余町歩の寄進を得て二層繁栄した。本尊薬師如来十二神を表示し谷を十二に分け、数百の僧坊を配置したという。今日、村名や御名にそのおまかげがしのばれる。
 天長年間、雷火のために焼失、当中中興英僧塔頭覚仁僧都が復興に努力し、地安坊大権現として祀られている。境内は、古木ウツ蒼として水清く、幽すい場所である。又、当寺の内佛本尊、子安地藏尊は田村將軍の二子俊光公の発願により、その御母公の姿を模し、安置せらるる尊像にして、世人呼んで御比丘尼様と称し、安産、子孫長久の霊験あきらかにして、四季の参詣者が絶えない。

福祿寿尊天

鴨江寺

甲江山鴨江寺は、芋堀長者が発願し、行基菩薩が大同二年に開創され、この本尊さまは大聖観世音菩薩を奉祀。以来、一千三百有余年、日々影向を仰ぎ歲月共に殷賑し、春秋の彼岸には遠近の信者が雲集します。
 又、当山では古来より弁財天を奉安し尊崇する信者も久しい。弁財天さまは釈迦如来の化身、一切衆生の慈母です。福德は三千界にみちて、慈悲を十方宮にしています。或は弁財天女と称して、智恵無碍の弁才を与え、管絃技芸の術を施します。経に、「若し人あつて貧乏ならば、我が法を修行せよ。」と有ります。現世にはこの尊の福に依つて身心を養つて恵命をつぎ、後世にはこの尊の富を得て功德を造つて往生を遂げることが出来ます。

弁財尊天

遠州信貴山

当山は、初寅参りで著名な、大和国信貴山毘沙門天の御分身を奉祀いたしております。
 ご高承の通り、信貴山、朝護孫子寺は奈良と大阪との境を南北に連なる生駒山脈の南端に位置し、大和川を眼下に、河内と大和の両域を見渡せる要地を占めていますために、歴史は極めて古く、用明天皇二年(西暦五八七年)七月三日、仏敵、物部守屋討伐のおり、聖徳太子が勝利を祈願して感得した我が国最古の毘沙門天を祀り、信すべき、貴き山、信貴山と号されたのに始まると伝えられております。
 毘沙門天の霊験の数々は、国宝「信貴山縁起絵巻」等にも活写されております。鎌倉時代には楠公の母が、尊天に祈願し正成が生誕いたし、又甲斐の信玄公が武運を祈願いたした事も有名であります。現代では、大衆の中に浸透し、勝運の神、施福神として信仰をあつめております。

毘沙門天

摩訶耶寺

当山は、聖武天皇の祈願寺として神亀三年(七二六年)に行基菩薩によつて開創された古刹で、秘佛厄除観音を御本尊とし、除災与楽現当利益祈願の寺として、二五〇年の歴史を持っています。現在の本堂は、寛永九年に再建されたもので、総檜の入母屋造り、格天井には極彩色の花鳥を配し、その絢爛さは今川、豊臣、徳川代々より寺領七〇石の御朱印と納豆領五石を拝受し、幕府登場には白書院独礼格の優遇を受け、遠近各村の氏神祭礼の主事を勤めるなど、当時の隆盛威信を窺わせます。
 福の神として知られている大黒天は、大摩尼珠王如来が貧しい衆生のために大慈悲を起こし大福德を施与せんがために応現したお姿であると、大黒天印満陀羅尼経に説かれています。当山の大黒天は三〇〇年前から信仰されてきた古い御神体で、多くの参詣人に撫でられさすられ増々二二三と福々しく、福德愛敬を今日もお授け下さっております。

大黒尊天

応賀寺

鏡光山応賀寺は、神亀年間(七二四年)聖武天皇の勸願寺として、行基菩薩により開基・創草された古刹であります。くだつて、弘仁年間(八二〇年)弘法大師諸国巡錫の砌り、浜名湖を渡らんとするに行路半ば強風吹き来り、一舟、波に煽られ闇夜の湖上を漂流、そのとき遠く対岸に一条の光の輝やくを認め、これを目標に無事漕ぎ着くことが出来ました。この光こそ当山の本尊、薬師如来の光背であつたと古記は伝えております。随喜された大師はこの寺の山号を光る鏡の山、鏡光山と呼び、喜ごびに応ずる寺すなわち応賀寺と名付け、海上安全と息災安穩を祈願されたと伝えられる真言宗始祖縁りの霊場であります。

恵比須神